

バイオ後続品（バイオシミラー） 使用へのご協力のお願い

当院では、患者さんの自己負担軽減と医療制度の持続可能性のため、
バイオ後続品の導入と説明を積極的に行っています。

バイオ後続品の3つの特徴



同等の有効性

先行バイオ医薬品（先発品）と同等の効果があることが、国の審査で証明されています。



同等の安全性




臨床試験により、副作用などの安全性も先発品と変わらないことが確認されています。



負担の軽減

開発費が抑えられるため、患者さんの窓口での支払額を減らすことができます。

当院の取り組み体制

-  **丁寧な情報提供**：導入前に、医師や薬剤師がメリットや変更点について十分にご説明いたします。
-  **安定供給の確保**：供給状況を常に確認し、不足が発生した際にも治療に影響が出ないよう体制を整えています。
-  **適切な対応**：状況に応じて処方変更が必要な際は、ご本人またはご家族にしっかりとご相談させていただきます。

80%以上を基準とする成分

(イ) エポエチン
(ロ) リツキシマブ
(ハ) トラスツズマブ
(ニ) テリパラチド
(ホ) ラニビズマブ
(ヘ) インスリングラルギン
(ト) ダルベポエチン
(チ) フィルグラスチム

50%以上を基準とする成分

(イ) ソマトロピン
(ロ) インフリキシマブ
(ハ) エタネルセプト
(ニ) アガルシダーゼベータ
(ホ) ベバシズマブ
(ヘ) インスリンリスプロ
(ト) インスリンアスパルト
(チ) アダリムマブ
(リ) アフリベルセプト
(ヌ) ウステキヌマブ
(ル) ペグフィルグラスチム
(ヲ) トシリズマブ

バイオ後続品使用体制加算（退院日に1回）
100点【入院】

バイオ後続品導入初期加算 月1回に限り
150点【外来】